

# イラクの子どもを救う会

## ニュース

発行：イラクの子どもを救う会 発行人：西谷文和  
 (新住所) 〒565-0824 吹田市山田西2-19-14  
 TEL 06 (4864) 1828 FAX 06 (6875) 8980  
 E-mail : nishinishi@r3.dion.ne.jp URL : http://www.nowiraq.com/

No.25

December. 2010

# アフガン取材報告

10月6日から20日まで、6日目となるアフガン取材を敢行した。冬を迎える首都カブールの夜の気温は、すでに氷点下近くまで下がっている。今回も避難民キャンプに食料を届けるとともに、病院には医薬品を配布した。そして初めてISAF軍(国際治安支援部隊)の基地に入り、米兵やアフガン兵から直接話を聞くことができた。銃を構え、タリバン殺戮訓練をして

いる米兵は、多くがまだ20歳そこその若者で、そして沖繩、横田、三沢など日米軍基地から派兵されていた。

### 広大な基地で射撃訓練

「うわー、広いな。どこまでが基地？」「あの山の向こうまでだ」通訳のサバウーンが山の彼方を指差す。ここはカブール郊外、アフガニスタン軍基地。米兵の運転する防弾車の中で、

### 世間話。

「アフガンにはどれくらいいるの?」「もうすぐ一年になる」「日本にいたの?」「そう。み、三沢と…、横須賀。海軍だからね」。

基地の中では大規模な道路工事が行われている。アフガンでは軍事費に群がった建設会社が空前の利益を上げ、ちよつとしたバブル景気だ。

広大な基地の中に旧ソ連軍の戦車の墓場。1980年代、アフガンゲリラたちが破壊した戦車をこの基地に集めている。

そんな戦車の墓場を通り過ぎて数分、禿げ山をバックにライフル銃を持った多数の警官たちが現れた。射撃訓練場だ。数十人の警官が整列している。そして約150m先には「タリバンを想定した標的」。

「構えて! よーい、撃て!」。バンバンバン、耳をつんざく轟音とともに、葉莖が飛び散り、的に穴が開いていく。迷彩服を着た米兵たちが、アフガン警官に銃の構え方、撃ち方を指導している。

「全員、進め!」かけ声とともに、銃を担いだ警官たちが50mほど標的に近づく。約100m先の「タリバン」に狙いを定め、「撃て!」の号令。一斉に火を噴くカラシニコフ銃。やがて警官たちは「タリバン」まで7mのところまで「接近戦」の訓練。その後回れ右をして元の位置、つまり約150m離れた地点まで行進する。

警官たちに実弾が配られる。私とロイターの記者には耳栓が至近距離で撮影していると、耳が持たない。口径8ミリの実弾をライフルに詰め込む警官たちがやがて「構えて! よーい、撃て!」の号令とともに、轟音が轟き、葉莖が飛び散る。この繰り返し。



対タリバンで接近戦の練習 (カブールのアフガン軍基地)



アフガン警官に射撃指導するのは米兵とイタリア兵だった (カブールのアフガン軍基地)

細かい話だが、実弾、警官たちの防弾チョッキ、銃、ヘルメット…。これらは大量に消費されるので、軍需製品を作る企業はかなりの収入になる。「戦争は儲かる」のだ。

採点が始まった。黒い部分が4点、白線から内側が5点。「65点は合格?」「まあまあだね」米兵が親指を突き上げる。教官である米兵たちにインタビュー。「どこから来たの?」「ワシントン州から」「アフガンは初めて?」「そう、ここに来る前はアフリカにいた」。そんなインタビューをしていた時だった。別の米兵が近づいてきた。「俺は沖繩にいたよ」「本当?」「沖繩のどこ?」「キャンプシユワープ(辺野古)」。

今問題になっている普天間基地の移設予定地である辺野古から、彼は激戦地アフガンへ派兵されている。「辺野古以外には?」「嘉手納やキャンプコートニーにもいた」。沖繩は海がきれいで楽しかった。ハブ酒はきつかったが、料理はおいしかったよ、など世間話の中から貴重な証言を引き出した。

訓練の間を縫ったインタビューだったので、数人の米兵にしか聞き取りができなかったが、横田、三沢、辺野古、横須賀。

そして日本政府はこの警官たちの給与の半分を負担している。つまり日本も「北風の一員」なのだ。

しかし今のアフガンで本当に功を奏するのは、「太陽作戦」だと思ふ。農民たちがなぜタリバン化するのか?それは空爆で村を焼かれ、親を殺された若者が、反米感情を高めて、ニュータリバンとなるからである。貧困に苦しむ農民たちに、食料を供給して、学校を作り、医薬品を充実させれば、彼らにも希望が見える。希望が見えれば簡単には自爆しない。学校で文字を学習すれば、新聞が読めるようになるので、タリバンの戦闘行為にも非があることを知るだろう。

**やけど病棟はこの世の地獄**

カブール市内のインディラガンジー子ども病院を訪問し、多くの子どもたちに出会った。おそらく劣化ウラン弾の影響を受けたであろう、白血病の子どもが入院していた。生まれつき肝門がなく、小頭症の赤ちゃんがいた。そして「やけど病棟」はいつ訪問しても「この世の地獄」だった。

熱湯を浴びて身体の65%をやけどした赤ちゃんは、かなり危



タリバンと疑った人を地面に押さえつけ手錠をかける(カブールの警官訓練センター)

出るわ出るわ、日本の地名。アメリカ本土からイラク・アフガンは地球の裏側に当たる。いったん日本にやって来て、そこで(人殺しの)訓練を積み、戦地にやって来ているパターンが多い。逆に言うと、日本の米軍基地がなければ「テロとの戦い」はやりにくい。

**アフガン人が求めているのは太陽作戦**

広大なアフガン軍基地と比べて、「アフガン警察官トレーニングセンター」は、少し小さな施設だった。センターに入るには強固な鉄の扉が二重にそびえていて、鉄の門扉前には民間軍事会社の軍人が銃を構えて立っている。

ない状態だった。貧困なアフガンの一般家庭では、夜の寒さをしのぐためにお茶を沸かす。電気もなく、寝室と台所が一体となっている地べたで、薪をくべて熱湯をわかすために、乳幼児がその熱湯に触れて大やけどする例が後を絶たないのだ。

日本は今年から5年に渡って50億ドル(約4000億円)を支援する。支援金はおそらく警官たちの給料に回り、基地関連土木工事に使われ、そしてカザイ政権の汚職に消える。一部でもいいからこの病院に直接入ることを願う。もちろん避難民キャンプの人々にも。

「沖繩の基地から米兵が派兵されている」「日本は多額の援助金を出している」「自衛隊の医務官が派遣されようとしている」などなど、アフガン戦争は決して私たちと無縁ではない。今求められているのは非暴力の援助、つまり太陽作戦である。しかし今の管内閣は、対中国やロシアとの折衝で、外交力が全く幼稚であることが露呈してしまった。極度にアメリカに頼りすぎると、必ずイラクやアフガンで、そのツケを払わされるのだ。どんな大國とも対等に相手しなければならないと感じる。

「俺たちはISAF軍取材許可証を持っている。中に入れる」。ロイターの記者と2人で交渉し、身体検査を受けて、ようやく中に。

センター内部では約450人の新任警官たちが、「タリバンを捕まえる訓練」を行っていた。

教官はイタリア兵士。警棒で2度3度と相手を殴り、脇の下に警棒を突っ込んで、地面に押さえつける。足と警棒で相手を動けなくしてから手錠をかける。「さあ、やってみろ」イタリア兵士の面前で、タリバン役になった警官を、別の警官が地面に押さえつけ、手錠をかけていく。傍らでは「POLICE」と



反米デモを鎮圧する訓練(カブールの警官訓練センター)

大書された盾と警棒を持った警官たちが整列している。「逮捕せよ!」のかけ声とともに、警官たちが警棒を振り上げ、盾を持ってじわじわと迫ってくる。雄叫びをあげながら、警棒で盾を打ち鳴らしながら、じりじりと進む。これは「反米デモ鎮圧作戦」。米軍が誤爆でアフガン人を殺せば殺すほど、各地で抗議デモが起こる。責任は米軍に

あるのだが、そのデモをアフガン人で鎮圧させようという魂胆である。

北風と太陽。アフガンでISAF軍や米軍がやるうとしていいるのは、「暴力を暴力で押さえつける」作戦だ。米軍が撤退するのが4年後の2014年。それまでにタリバンと闘えるような軍と警察を作り上げておこうということ。

**募金のご協力ありがとうございました**

今回も日本でいただいた貴重な募金で、①避難民キャンプへの食料支援、②インディラガンジー子ども病院への医薬品支援を行うことができました。募金いただいたみなさん、あらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

インディラガンジー子ども病院では、戦争被害、貧困による被害を受けた子どもが、多数入院しています。この病院は名前の通りインド政府が建てたもので、インドが継続的に支援しておりです。その一環として、インド人医師が数名派遣されていて、難しい外科手術などを施すとともに、アフガン人医師を研

修していました。ところがこのインド人医師数名を狙った自爆テロが、半年前に発生し、医師たちは被害され、さすがのインド政府も事件以後、医師の派遣を見送っています。

「開頭手術を3回やった」。私を案内してくれたハビブ医師は外科医なので、ほとんど寝る間もなく、人命を救助しているのですが、技術が追いつきません。一回ですむところを何度も、試行錯誤している様子を見ると、ここに日本人医師がいて、研修してくれたらなあ、と感じました。やけどに効く薬は「アブダミン」といって身体の内側からタンパク質を作り、新しい皮膚を創出する手助けをしてくれるのですが、結構これが高価なので、とても支援金で満足いく量を買出すことができませんで

やけどで重症。左目は感染症にやられている



やけどで重症。左目は感染症にやられている



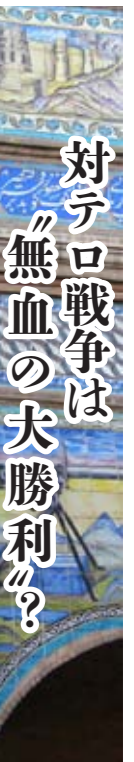
熱湯を浴びて身体の65%に大やけど



小頭症で無肛門症。足指は先天性異常

した。私はもうすぐ国会で議員さんや外務省の人々にこの窮状を訴え、50億ドルのうち少しでもいいから、この病院に直接回るようにするシステムを作ろうと呼びかける予定です。個人の支援では限界があります。しかし個人から始めないと前進しないこともまた事実です。

アフガニスタンには、来年の2月か3月頃、再び訪れる予定です。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



「外庄」は強ければ強いほどナシヨナリズムを鼓舞するツールとしての機能を増す。

外交をめぐる世論・言論の動きに胸を曇らせることの多いこのごろだが、内政の脆弱さを突いてくる「外庄」はまた、うわすべりのナシヨナリズムをおおることで当局の責任転嫁を容易にし、ほころびや矛盾の本質から人々の目をそらすツールにもなり得ることを、改めて考えさせてくれる。

この「外庄」を、ときにはみずから創りだし演出してみせることで、内政の矛盾をたくみに躲かしているように見える国、核兵器開発をめぐって「まいどお騒がせ」の国イランを、先月訪ねる機会があった。

■イスラム法学者の統治■

イラン西南部の都市シーラーズから首都テヘランまでイラン高原を縦断。約一〇〇〇キロの移動の途中、ハイウェイからナタンツにあるウラン濃縮施設をながめ、去年、第二の秘密施設が存在が明らかになった、宗教科市コムにもたちよった。テヘランの南約一三五キロ。

イラクのナジヤフとならぶシーア派の聖地コムは、一九七九年に世界をあつとわせた「イスラム革命」の震源地だ。高名なフエイズエーエ神学校をはじめ名門新学校があつつまり、イマーム・ホメイニー神学校では世界八〇カ国二〇〇〇人の留学生が学んでいるという。

この地のシンボル、ファアティメ霊廟を訪ねた。「異教徒御免」ときいていた聖域に入るこどができ(もちろん頭からすっぽり全身をチャドルでおおつて)、幸運なことに聖職者の話をきく機会にめぐまれた。

十数畳ほどの部屋に異国のトラペラーをむかえた聖職者は、イスラム教がいかに寛容であり、世界平和と人類平等の実現にどれほど寄与する教えであるかを力説した。が、いっぽうでアメリカ、イスラエルの名を口にすることも忘れなかった。

宗教的行為がそのまま政治的な意味をもつ。政教一致の国ならではというべきだろう。

けれど、かつてイラン・イラク戦争のさいには、彼ら宗教指導者が、革命防衛隊の傘下にあるハイウェイや街をぬける道路沿いに、花の首飾りであるどられた殉教者たちの肖像画をみかけることもたびたびだった。

革命から三一年。停戦から二年。大儀を背負つて戦場に立たねばならなかった中核世代はすでに四〇〇五〇代となり、革命を知らない世代は七割をこえたという。イランは若い国だ。大きな潜在力を秘めている。

だが、戦後保障や失業問題など負の遺産はいぜん重く、戦争で贖えぬ犠牲をはらつた人々の苦悩も深い。

イランを去る日の夕刻、イスタンブル行き国際列車のターミナルでテレビをみた。画面にはアフマディネジャド大統領や宗教指導者度々登場し、そのあとには、明らかに殉教者としての殉教の功績を讃美する目的で編成されたと思われる映像が、いつ終わることもなく流れていた。

■隣国にとってのイラク戦争■

この一月初め、イラクでは八ヶ月も紛糾した連邦交渉が一段落し、クルド人勢力を代表するタラバニ大統領と、「法



シーア派の聖地コム。ファアティメ霊廟

の民兵組織「バシージュ」(正式名称は「被抑圧者の動員」)を監督し、全国から駆りあつめた三〇〇万をこえる青少年たちのイデオロギー指導をおこなつた。そのことがいやがおうにも頭をよぎり、釈然とせぬ、というより胸中をひどくかき乱されて聖域をあとにした。

■イラン・イラク戦争の爪痕■

ハイウェイには車両の運行記録タコグラフをチェックする検問所がある。そうしたポイントにはきまつて看板が立つている。兵士とおぼしき若者と、ヒジヤープを被つた若い女性、あるいは幼い女の子が描かれた大きな甲板だ。女性は胸のあたりに赤い花をもち、それを男性にささげている。道路沿いにはほかに看

治国家連合」のマリキ首相の留任が正式決定した。シーア派主導政権をひき続き担うことになつたマリキは、イスラム教シーア派の「ダアワ党」の書記長をつとめた人物で、フセイン政権崩壊後イラクに帰還した。

イラク戦争を機に帰還したシーア派組織の多くは、フセイン政権時代はイランに拠点を移していた。それだけでなくイラクは、シーア派が国民の半数以上を占める国。続投政権のゆくえにイランは、当然のことながら無関心ではいられない。

イランにとってアメリカの対テロ戦争は、「無血で得た大勝利」だとする見方もある。

強硬に「反タリバン」を掲げてきた彼らが壊滅をのぞんだタリバン政権と、イラク戦争中、子どもたちにまで「サダムに死を！」を唱和させていたというほど打倒したかつたフセイン政権を、つまり、安全保障上の東西の脅威を、アメリカがともに



「一緒に写真を撮って」とむこうから声をかけてくる。ナイスカップルにもたくさん出会った。

板とよぶべきものがないため、ごく自然に目がつまる。何の看板かとガイドにたずねた。戦場におもむく兵士が無事帰還できるよう「祈りながら待っています」というメッセージをこめたものだという。赤い花は、大地に流された殉教者たちの尊い血の象徴なのだそうだ。

イラン・イラク戦争(一九八〇年九月〜八八年七月)の八年間、「イスラム革命」の大儀を守るため、数知れぬ男たちが戦場におもむいた。はじめは地域の聖職者たちが中心となつてつくつたボランティア組織だった「バシージュ」も、戦争の勃発とともにその性格を一変させた。戦争の長期化とあいまつて大動員がおこなわれ、もつとも貧しい地域の、読み書きもままならない男たちがかきあつめられ、短期の訓練、不十分な軽装備のまま戦場に送られた。兵役年齢に達しない一〇代の少年たちから三〇〜四〇代の一家の主まで、その数は数百万を数えたという。

政府は、この戦争の戦死者(民間人犠牲者をふくまない)をやつつけてくれたからだ。だがその結果、両国におけるアメリカの軍事的プレゼンスが高まり、新たな脅威になつてい

を二万人、行方不明者を六万人と発表したが、別の試算では戦死者は二〇万〜三〇万人にのぼるといふ。じつさい、傷痕軍人の数は三〇万〜四〇万人を数えているというから、大げさな試算ではないだろう。

悲劇的なことは、彼らの多くが「殉教者には天国行きの切符がわたされる」というよびかけに応じて馳せ参じた若者たちだつたということだ。殉教は理想の死。神と来世を信じるものは死を恐れない……。武器をもたない民衆は、信仰という武器で革命をなしたとげた。殉教という武器であらゆる武器に勝ち、「血は剣に優る」ことを証明した……。学校では殉教の意義がくりかえし教えられ、無垢な志しに燃えた若者たちが次々と戦場に出ていった。

はたして、戦争は八年の長きにわたり、イラン、イラク両国合わせて一〇〇万人の死傷者を出して幕を閉じた。ある書物で、若い殉教者の「最後の手紙」をみつけた。「気高き神の御名において。お父さんお母さん、お元氣ですか。手紙をうけとりました。とても嬉しかったです。辛いことはわかりません。けれど息子が前線に

ることも否めない。中東諸国がかかえる問題の複雑さ、深刻さをあらためて考えさせられた。大垣さなえ(作家)



などを予定しております。

国境なき芸能団と行く北イラクの旅

2010年11月30日から約一週間、NPO法人「国境なき芸能団」と一緒に北イラクのスレイマニア市を訪問します。笑福亭鶴笑さんを団長として、子どもたちに愛と笑いを届けるツアーです。

スレイマニア市を訪問するのは、今のところ落語家の笑福亭鶴笑さん、手品師の阪野登さん、マンガ家の高宮信一さん、そして西谷文和の4人です。

スレイマニア市は北イラクのクルド人自治区にあつて、今のところ治安は安定しています。バグダッドから逃げてきた国内避難民たちが住むカラア避難民キャンプの子どもたちは、電気もきれいな水も不足し、学校にも行けない生活がもう4年も続いているので、まずはこのキャンプを訪れて、笑いと支援物資を届けます。

鶴笑さんは、人形を使った「パペット落語」を得意とされているので、言葉の壁を乗り越えた国際交流ができると思います。

避難民キャンプだけではなく、スレイマニア大学病院のがん専門病棟や、毒ガスで虐殺された町、ハラブジャなども訪問する予定です。

具体的な旅の日程は今のところ、

- ① スレイマニア市のカラア避難民キャンプを訪問。支援物資を配るとともに、芸能団が公演する。
② スレイマニア大学病院がん専門病棟を訪問し、同様の行動。
③ ハラブジャの化学兵器虐殺記念館を訪問し、同様の行動。
④ 現地の小学校を訪問。

# 「イラクと被曝」

シリーズ 5

## 原子力エネルギーがもたらすもの

放射線は目に見えない。レントゲンのX線が体を通り抜けても、私たちは何も感じない。対照的に、癌・白血病・異常出産など、被曝が原因であろう被害は目に見えて広がっている。しかし、疫学的にどれだけ被害が確認されても、科学的な実証ができないことから、劣化ウラン弾などが使用禁止となる未来はとてども遠い。そして、目に見えないのは放射線だけではない。

私たちは、遠くにいる彼らの被害や痛みがよく見えない。また、過去の痛みや、これからの未来の痛みも。放射線と同じように、そこに確実に存在することを知っていても、肌で感じる事ができない。だからこそ、西谷さんは何度もイラクやアフガンに足を運び、私たちに考える機会を提供してくださっている。それでもまだ、時間的・空間的に遠くにあるものを自分のことのように見るのはとても難しいのである。

原子力エネルギーを例にしてみよう。あれほどの原爆被害にあっている日本が、原子力発電をあたかもク

リーンな発電であるかのように理解し、東南アジアへの技術輸出まで行うようになってしまった。対照的に、チェルノブイリの経験から、ヨーロッパではどんどん原子力発電離れが進んでいる。日本では、原子力発電の核廃棄物は、地中深くに埋められるために安全だとされ、また、さらに危険なプルトニウムを作り出す核再処理工場ですら、核廃棄物を出さないという点から、より自然環境にやさしいものとされる。完全に放射性物質を閉じ込めておける素材は未だに見えられていないし、もしも事故が起こった時に、火災を沈下する物質が何かも分かっていないのに。時間の流れの中で、見えていたものまでもが、見えなくなってきているのかもしれない。足尾鉍毒問題と戦った田中正三はこう言っている。「真の文明は山を荒らさず、川を荒らさず、村を破らず、人を殺さざるべし」私たちが生きている文明は、一体何なのだろうか、今一度深く考えたい。

近藤麻衣 (大阪 YMCA)

## 『イラクの子どもを救う会』事務局便り⑦

猛暑の反動で秋が待ち遠しく、ようやく美しい紅葉をみる時期がきて楽しむことができました、皆様の秋はいかがでしたでしょうか。

今年7月に販売開始となりました新DVDをお買い上げ頂いた方、又、学校の催しやコミュニティなどの上映会をとおしてご覧になった皆様、ご支援を本当にありがとうございました。夏から秋にかけて新たなニュースレター送付先が120人も増えたことで、たくさんの方にみてもらっていると実感でき、さらにこれからもニュースレターを通して現地の最新ニュースを共有できることがとても嬉しいです。今後ともよろしく願いいたします。もうそろそろ新しい年がみえてきましたね、来年の次号まで皆様、お元気で過ごしてくださいね。(釘嶋)



- 【お知らせ】
1. ニュースレター配布停止は 御手数ですが、当会までお知らせ下さい。尚、ニュースレターはメール便で発送しております。転居先まで追跡ができませんので、転居がきまりましたらお知らせいただくと非常に嬉しいです。よろしく願いします。
  2. DVD「ジャーハダ イラク 民衆の闘い」の感想を引き続きお待ちしております。〒565-0824 大阪府吹田市山田西2-19-14 FAX: 06 (6875) 8980 (昨年7月に移転しました)
- ご意見、感想などはこちらにお寄せください、お待ちしております。  
office@nowiraq.com

## 動画プレゼント

2010年10月の取材を、約30分の動画にまとめました。内容はこのニュースの報告通りですが、動画で見ただくと臨場感があり、この戦争の不当性を実感できます。ご希望の方にこの動画をお譲りします。希望者は、「イラクの子どもを救う会」のメールかファックスでお申し込みください。後日郵送いたしますので住所と連絡先をご記入ください。



## 募金のあて先

- ① 三井住友銀行 吹田支店 普通 3712329  
イラクの子どもを救う会 西谷文和
- ② 郵便振込 00970-5-222501  
イラクの子どもを救う会